

社会福祉法人 顕真会

権現乳児保育所に係る第三者評価結果報告書

(平成15年度評価)

社団法人 全国保育士養成協議会

児童福祉施設サービス第三者評価機関 (HYK)

## 評価結果

### I. 特徴

1	発達援助 (通し番号 1～13)	一人一人の子どもの育ちの実態が把握されている。コンピューターを利用し、全ての保育士が情報を共有し、保育の計画に生かしている。それをもとに保護者からの問いかけにも対応でき、協力体制をとっている。
	保育内容 (通し番号 14～24)	健康と安全に配慮し、一人一人の子どもの発達を細やかに見守っている。子どもの自主性や意欲を大切にし、受容的にかかわっている。戸外遊びも多く、自然や地域の人たちとの触れ合いを大切にしている。
2	子育て支援 (通し番号 25～32)	保護者とは日々情報交換をし、苦情や相談は担当者が随時受け付けている。保護者の保育参加などにより共通理解を図っている。延長保育など、地域の子育て支援も積極的である。特に配慮を必要とする子どもについても、常時、丁寧に対応している。
3	地域等連携 (通し番号 33～41)	地域福祉や医療のきめ細かい情報収集と、提供・活用が図られている。実習生の受け入れ、小中学生・教員との交流、園併設のデイサービスセンターで高齢者への食事の宅配サービス等も行い、地域住民や民生・児童委員との情報交換も行っている。
4	運営管理 (通し番号 42～52)	要覧や園だより、ホームページなどにより保育方針を周知している。IT化により、親の苦情や園内外の情報を共有し、保育の向上・改善に生かしている。守秘義務・安全衛生管理の徹底を行っている。

### II. 課題

充実した情報管理のもとで、全職員が情報を共有しているが、今後、多職種・多人数の職員配置の中で、直接的な話し合い等により、職員相互の意思疎通を一層図っていくような配慮が期待される。

### III. 利用者アンケートからの概評

ほぼ全ての項目で肯定的評価を得ている。「園だよりの内容が充実しており、園での様子がよく見える」等の自由記述や、保育士の熱心であたたかい対応、手作りの栄養バランスを考えた献立、離乳食の充実、安全・衛生に対しての保護者の安心等、高い評価がみられる。

#### IV. 評価項目別 評価（後出）

#### V. 総合所見

保育理念と保育方針に基づいて、発達援助、子育て支援、地域との連携、管理運営が無理なく関連づけられている。全職員が日頃保育所運営や管理についても主体的に学び、それへのかかわりもみられる。ゆったりした環境の中で、子どもの育ちに必要な援助を行っている。保護者の苦情や要望への対処、およびプライバシーの尊重も十分である。

#### VI. キーワード

IT化による情報の共有    食事の充実    季節感の尊重  
地域との連携    安全・衛生・安心

IV. 評価項目別 評価(評価の対象として該当しない項目については“※”をつけています。)

1. 子どもの発達援助 (通し番号 1~24)

	評価項目	判断基準	評価結果
発達援助の基本	(1) 保育計画が、保育の基本方針に基づき、さらに地域の実態や保護者意向等を考慮して作成されている。	a 保育計画が、保育の基本方針に基づき、さらに地域の実態や保護者の意向等を考慮して作成されている。	a
		b 保育計画は、保育の基本方針に基づき作成されているが、地域の実態や保護者の意向等は考慮されていない。	
		c 保育計画が、保育の基本方針に基づいていない。	
	1		
	(2) 指導計画の評価を定期的に行い、その結果に基づき、指導計画を改定している。	a 定期的に指導計画の評価を行い、その結果に基づき、指導計画を改定している。	a
b 定期的に指導計画の評価を行っているが、その結果が指導計画に反映されていない。			
c 定期的に指導計画の評価を行っていない。			
2			
(3) 一人一人の子どもの発達状況に配慮した指導計画となっている。	a 一人一人の子どもの発達状況に配慮した指導計画となっている。	a	
	b 子どもの発達状況に配慮しているが、一人一人に配慮した指導計画となっていない。		
	c 子どもの発達状況に配慮した指導計画となっていない。		
3			
(4) 一人一人の子どもの発達状況、保育目標、生活状況についての記録があり、それぞれの子どもに関係する全職員に周知されている。	a 一人一人の子どもの記録があり、それぞれの子どもに関係する全職員に周知されている。	a	
	b 一人一人の子どもの記録はあるが、それぞれの子どもに関係する全職員に周知されていない。		
	c 一人一人の子どもの記録がない。		
4			
(5) 一人一人の発達状況、保育目標、保育の実際について話し合うためのケース会議を定期的かつ必要に応じて開催している。	a ケース会議を定期的かつ必要に応じて開催している。	a	
	b ケース会議を必要に応じて開催しているが、定期的には開催していない。		
	c ケース会議を開催していない。		
5			
健康管理	(6) 登園時や保育中の子どもの健康管理は、マニュアルなどがあり子ども一人一人の健康状態に応じて実施している。	a 健康管理は、マニュアルなどがあり、子ども一人一人の健康状態に応じて実施している。	a
		b 健康管理は、マニュアルなどはないが各児童の健康状態に応じて実施している。	
		c 健康管理は、子ども一人一人の健康状態に応じて実施していない。	
6			
(7) 健康診断の結果について、保護者や職員に伝達し、それを保育に反映させている。	a 健診結果について、保護者や職員に伝達し、保育に反映させている。	a	
	b 健診結果について、保護者や職員に伝達しているが、保育に反映させていない。		
	c 健診結果について、保護者や職員に伝達していない。		
7			

	評価項目	判断基準	評価結果
健康管理	(8)感染症への対応については、マニュアルなどがあり、発生の状況を必要に応じて保護者に連絡している。 8	a 感染症への対応については、マニュアルなどがあり、発生の状況を必要に応じて保護者に連絡している。 b 感染症への対応については、発生の状況を必要に応じて保護者に対して連絡しているが、マニュアルなどはない。 c 感染症への対応については、発生の状況を保護者に連絡していない。	a
	(9)専門医から指示があった場合、アレルギー疾患をもつ子どもの状況に応じて適切な対応を行っている。 9	a 専門医から指示があった場合、アレルギー疾患をもつ子どもの状況に応じて適切な対応を行っている。 c 専門医から指示があった場合、アレルギー疾患をもつ子どもに対する特別な取り組みを行っていない。	a
	(10)日々の献立を保護者に示すとともに、必要に応じて、子どもの喫食状況を保護者に知らせている。 10	a 日々の献立を保護者に示すとともに、必要に応じて、子どもの喫食状況を知らせている。 b 日々の献立を保護者に示しているが、喫食状況は知らせていない。 c 日々の献立を保護者に示していない。	a
	(11)食事を楽しむことができる工夫をしている。 11	a 食事を楽しむことができる工夫をしている。 b どちらかといえば工夫をしている。 c 工夫をしていない。	a
保育環境	(12)子どもが心地よく過ごすことのできる環境を整備している。 12	a よく整備されている。 b どちらかといえば整備されている。 c 整備されていない。	a
	(13)生活の場に相応しい環境とする取り組みを行っている。 13	a よい取り組みが行われている。 b どちらかといえば取り組みが行われている。 c 取り組みが行われていない。	a

	評価項目	判断基準	評価結果
保育内容	(14)子ども一人一人への理解を深め、受容しようと努めている。	a 子どもをよく受容しようと努めている。	a
		b どちらかといえば子どもを受容しようと努めている。	
	14	c 子どもを受容しようと努めていない。	
	(15)基本的な生活習慣や生理現象に関しは、一人一人の子どもの状況に応じて対応している。	a 一人一人の子どもの状況に応じてよく対応している。	a
		b どちらかといえば対応している。	
	15	c 対応していない。	
	(16)子どもが自発的に活動できる環境が整備されている。	a 環境がよく整備されている。	a
		b どちらかといえば整備されている。	
	16	c 整備されていない。	
	(17)身近な自然や社会とかかわれるような取り組みがなされている。	a よく取り組みがなされている。	a
	b どちらかといえば取り組みがなされている。		
17	c 取り組みがなされていない。		
(18)さまざまな表現活動が自由に体験できるように配慮されている。	a よく配慮されている。	a	
	b どちらかといえば配慮されている。		
18	c 配慮されていない。		
(19)遊びや生活を通して、人間関係が育つよう配慮している。	a よく配慮されている。	a	
	b どちらかといえば配慮されている。		
19	c 配慮されていない。		
(20)子どもの人権に十分配慮するとともに、文化の違いを認め、互いに尊重する心を育てるよう配慮している。	a よく配慮されている。	a	
	b どちらかといえば配慮されている。		
20	c 配慮されていない。		
(21)性差への先入観による固定的な観念や役割分業意識を植え付けないよう配慮している。	a よく配慮されている。	a	
	b どちらかといえば配慮されている。		
21	c 配慮されていない。		

	評価項目	判断基準	評価結果
保育内容	(22) 乳児保育のための環境が整備され、保育の内容や方法に配慮がみられる。	a よく配慮されている。	a
		b どちらかといえば配慮されている。	
	22	c 配慮されていない。	
保育内容	(23) 長時間にわたる保育のための環境が整備され、保育の内容や方法に配慮がみられる。	a よく配慮されている。	a
		b どちらかといえば配慮されている。	
	23	c 配慮されていない。	
保育内容	(24) 障害児保育のための環境が整備され、保育の内容や方法に配慮がみられる。	a よく配慮されている。	※
		b どちらかといえば配慮されている。	
	24	c 配慮されていない。	

2. 子育て支援 (通し番号 25~32)

評価項目		判断基準	評価結果
入所児童の保護者の育児支援	(1)一人一人の保護者と、日常的な情報交換に加え、個別面談などを行っている。 25	a 送迎の際の対話や連絡帳への記載などの日常的な情報交換に加えて、別の機会を設けて相談に応じたり個別面談などを行っている。 b 送迎の際の対話や連絡帳への記載などの日常的な情報交換を行っている。 c 一人一人の保護者と、子どもについて情報交換を行っていない。	a
	(2)家庭の状況や保護者との情報交換の内容要に応じて記録されている。 26	a 家庭時の状況や保護者との情報交換の内容が必要に応じて記録されている。 c 家庭の状況や保護者との情報交換の内容が必要に応じて記録されていない。	a
	(3)子どもの発達や育児などについて、懇談などの話し合いの場に加えて、保護者と共通理解を得るための機会を設けている。 27	a 懇談会などの話し合いの場に加えて、保護者の保育参加など、保護者と共通理解を得るための機会を設けている。 b 懇談会などの話し合いの場を設けているが、保護者と共通理解を得るための機会を設けていない。 c 懇談会などの話し合いの場を設けていない。	a
	(4)虐待を受けていると疑われる子どもの早期発見に努め、得られた情報が速やかに園長まで届く体制になっている。 28	a 虐待などの早期発見に努め、得られた情報が速やかに園長まで届く体制になっている。 b 虐待などの早期発見に努めているが、得られた情報が速やかに園長まで届く体制になっていない。 c 虐待などの早期発見に努めていない。	a
	(5)虐待を受けていると疑われる子どもの保護者への対応について、児童相談所などの関係機関に照会、通告を行う体制が整っている。 29	a 虐待を受けていると疑われる子どもの保護者への対応について、児童相談所など関係機関に照会、通告を行う体制が整っている。 c 虐待を受けていると疑われる子どもの保護者への対応について、児童相談所など関係機関に照会、通告を行う体制が整っていない。	a
多様な子育てニーズへの対応	(6)多様な子育てニーズを把握するための取り組みを行い、それを事業に反映している。 30	a 多様な子育てニーズを把握するための取り組みを行い、それを事業に反映させている。 b 多様な子育てニーズを把握するための取り組みを行っているが、それを事業に反映させていない。 c 多様な子育てニーズを把握するための取り組みを行っていない。	a
地域の子育て支援	(7)育児相談など地域の子育て家庭を対象とする子育て支援のための取り組みを行っている。 31	a よい取り組みが行われている。 b どちらかといえばよい取り組みが行われている。 c 取り組みが行われていない。	a
	(8)一時保育は、一人一人の子どもの心身の状態を考慮し、通常保育との関連を配慮しながら行っている。 32	a 一時保育の内容や方法によく配慮している。 b 一時保育の内容や方法にどちらかといえば配慮している。 c 一時保育の内容や方法に配慮していない。	a

### 3. 地域の住民や関係機関等との連携 (通し番号 33~41)

	評価項目	判断基準	評価結果
地域の住民や関係機関・団体との連携	(1) 保育所の役割を果たすために必要な地域の関係機関などの情報を収集し、それを職員が共有している。 33	a 地域の関係機関についての情報を収集し、それを職員が共有している。	a
		b 地域の関係機関についての情報を収集しているが、それを職員が共有していない。	
		c 地域の関係機関についての情報を収集していない。	
	(2) 子どもの健康状況について、医療機関などに相談や連携ができる体制になっている。 34	a 子どもの健康状況について、医療機関などに相談や連携ができる体制になっている。	a
		c 医療機関などに相談や連携ができる体制になっていない。	
	(3) 育児相談などに際して、児童相談所などの専門機関に相談や連携ができる体制になっている。 35	a 育児相談などに際して、児童相談所などの専門機関に相談や連携ができる体制になっている。	a
		c 児童相談所などの専門機関に相談や連携ができる体制になっていない。	
(4) 小学校との間で、小学生と園児とが行事等で交流する機会を設けており、職員間の話し合い、研修などの連携の機会がある。 36	a 小学校との間で、小学生と園児とが行事等で交流する機会を設けており、職員間の話し合い、研修などの連携の機会がある。	a	
	b 小学校との間で、小学生と園児とが行事等で交流する機会を設けているが、職員間の話し合い、研修などの連携の機会がない。		
	c 小学校との間で、小学生と園児とが行事等で交流する機会がない。		
(5) 民生・児童委員や自治会等の地域団体と連携した取り組みを行っている。 37	a 民生・児童委員や自治会等の地域団体と連携した取り組みを行っている。	a	
	c 民生・児童委員や自治会等の地域団体と連携した取り組みを行っていない。		
(6) 近隣の人々に保育について理解を得たり、協力を依頼するなどの配慮をしている。 38	a 近隣の人々に保育について理解を得たり、協力を依頼するなどの配慮をしている。	a	
	c 近隣の人々に保育について理解を得たり、協力を依頼するなどの配慮をしていない。		
(7) 中高生などの保育体験を受け入れるに当たり、受け入れの意義や方針が全職員に理解され、受け入れの担当者も決められている。 39	a 中高生などの保育体験を受け入れるに当たり、受け入れの意義や方針が全職員に理解され、受け入れの担当者も決められている。	a	
	b 中高生などの保育体験を受け入れるに当たり、受け入れの意義や方針が全職員に理解しているが、受け入れの担当者が決められていない。		
	c 中高生などの保育体験を受け入れるに当たり、受け入れの意義や方針が全職員に理解されていない。		

	評価項目	判断基準	評価結果
実習・ボランティア	(8) 実習生を受け入れるに当たっては、受け入れの意義や方針が全職員に理解され、実習担当者も決められている。 40	a 実習生を受け入れるに当たり、受け入れの意義や方針が全職員に理解され、実習担当者も決められている。	a
		b 実習生を受け入れるに当たり、受け入れの意義や方針が全職員に理解されているが、実習担当者が決められていない。	
		c 実習生を受け入れるに当たり、受け入れの意義や方針が全職員に理解されていない。	
	(9) ボランティアを受け入れるに当たっては、受け入れの意義や方針が全職員に理解され、実習担当者も決められている。 41	a ボランティアを受け入れるに当たり、受け入れの意義や方針が全職員に理解され、受け入れの担当者も決められている。	a
		b ボランティアを受け入れるに当たり、受け入れの意義や方針が全職員に理解されているが、受け入れの担当者が決められていない。	
		c ボランティアを受け入れるに当たり、受け入れの意義や方針が全職員に理解されていない。	

4. 運営管理 (通し番号 42～52)

	評価項目	判断基準	評価結果
基本方針	(1) 保育所の保育理念及び基本方針が明文化されている。	a 保育理念及びその理念に基づいた保育サービスの提供の基本方針がいずれも明文化されている。 b 保育理念及びその理念に基づいた保育サービスの提供の基本方針のいずれかが明文化されている。 c 保育理念と保育サービス提供の基本方針のいずれも明文化されていない。	a
	(2) 保育理念や基本方針を職員、保護者、関係者に周知するための取り組みを行っている。	a 保育理念及び基本方針について、職員や保護者だけでなく、地域の住民や関係機関なども対象に含め、周知を図るための取り組みを行っている。 b 保育理念及び基本方針について、職員や保護者に周知するための取り組みを行っているが、地域の住民、関係機関などにはその周知を図るための取り組みを行っていない。 c 保育理念及び基本方針を、職員、保護者、関係者いずれにも周知するための取り組みを行っていない。	a
組織運営	(3) 保育の質の向上や改善のための取り組みを、職員参加により行っている。	a 定例会議を含め、年間を通じて職員から提案を募集するか、又は定期的に（年に複数回）意見を聞くための場を設け、保育の質の向上や改善のための取り組みを行っている。 b 定例会議を含め、年間を通じて職員から提案を募集するか、又は定期的に（年に複数回）意見を聞くための場を設けているが、それを踏まえて保育の質の向上や改善のための取り組みを行っていない。 c 定例会議を含め、保育の質の向上や改善に関し、職員からの意見を聞いていない。	a
	(4) 保育の内容について、職員参加により、定期的に自己評価を行っている。	a 保育の内容について、職員参加により、定期的に自己評価を行っている。 b 保育の内容について、定期的に自己評価を行っているが、職員参加が図られていない。 c 保育の内容について、定期的に自己評価を行っていない。	a
	(5) 職員の研修ニーズを把握し、職員に適切な研修機会を確保している。	a 職員の資質向上に向けた目標に基づき、各職員についてどのような技術・技能を修得する必要があるかを把握し、適切な研修機会の確保を行っている。 b 職員の研修機会は確保しているが、職員の資質向上に向けた目標に基づき、各職員についてどのような技術・技能を修得する必要があるかを把握していない。 c 職員の研修機会を確保していない。	a
の 守 秘 守 務	(6) 守秘義務の遵守を周知している。	a 保育に当たり知りえた子どもや家庭に関する秘密の保持について、職員に周知している。 c 保育に当たり知りえた子どもや家庭に関する秘密の保持について、職員に周知していない。	a

	評価項目	判断基準	評価結果
情報提供・保護者の意見の反映	(7) 情報提供に当たって、わかりやすく伝える工夫や配慮を行っている。 48	a 情報提供をよく行っている。 b 情報提供をどちらかといえば行っている。 c 情報提供をほとんど行っていない。	a
	(8) 保育の実施に当たり、保護者から意見を聞くための取り組みを行い、その意向に配慮している。 49	a 日常的に保護者と接する場面で意見を聞く以外に、懇談会や保育への参加の機会を設けるなど、保護者の意見を聞くための取り組みを行うとともに、その意向に配慮している。 b 日常的に保護者と接する場面で意見を聞く以外に、懇談会や保育への参加の機会を設けるなど、保護者の意見を聞くための取り組みを行っているが、その意向に配慮していない。 c 日常的に保護者と接する場面で意見を聞く以外には、保護者の意見を聞くための取り組みを行っていない。	a
安全・衛生管理	(9) 事故や災害に適切に対応できるマニュアルがあり、全職員に周知されている。 50	a 事故や災害に適切に対応できるマニュアルがあり、全職員に周知されている。 b 事故や災害に適切に対応できるマニュアルはあるが、全職員に周知されていない。 c 事故や災害に適切に対応できるマニュアルがない。	a
	(10) 事故防止のためのチェックリスト等があり、事故防止に向けた具体的な取り組みを行っている。 51	a 事故防止のためのチェックリスト等があり、事故防止に向けた具体的な取り組みを行っている。 b 事故防止のためのチェックリスト等はないが、事故防止に向けた具体的な取り組みを行っている。 c 事故防止に向けた具体的な取り組みを行っていない。	a
	(11) 調理場、水周りなどの衛生管理は、マニュアルに基づいて適切に実施されている。 52	a 調理場、水周りなどの衛生管理は、マニュアルがあり、適切に実施されている。 b 調理場、水周りなどの衛生管理は、マニュアルはあるが、適切に実施されていない。 c 調理場、水周りなどの衛生管理のためのマニュアルがない。	a

評価決定委員会

[委員長]	石井	哲夫	白梅学園短期大学学長
[副委員長]	民秋	言	白梅学園短期大学教授
	荒井	洌	白鷗大学女子短期大学部教授
	泉	千勢	大阪府立大学教授
	伊東	安男	建昌保育園園長
	大嶋	恭二	東洋英和女学院大学教授
	小笠原	文孝	よいこのもり第二保育園園長
	小川	益丸	新市保育所所長
	柏女	靈峰	淑徳大学教授
	小館	静枝	小田原女子短期大学学長
	櫻井	慶一	文教大学教授
	汐見	稔幸	東京大学大学院教授
	柴崎	正行	大妻女子大学教授
	庄司	順一	青山学院大学教授
	高野	陽	東洋英和女学院大学教授
	朽尾	勲	立正大学教授
	豊永	せつ子	のぞみ愛児園園長
	西村	重稀	福井県総合福祉相談所所長
	野上	良仁	八王子ひまわり保育園園長
	普光院	亜紀	保育園を考える親の会代表
	古川	孝順	東洋大学大学院教授
	増田	まゆみ	小田原女子短期大学教授
	待井	和子	大阪社会事業短期大学名誉教授
	松岡	俊彦	澁野辺保育園園長
	松原	康雄	明治学院大学教授
	真野	絹代	玉川保育園主任保育士
	村田	保太郎	白梅学園短期大学特任教授
	山縣	文治	大阪市立大学助教授
	山崎	美貴子	神奈川県立保健福祉大学教授
	山城	清子	草花保育園園長

( 五十音順 敬称略 )

(平成 16 年 2 月 8 日現在)